

# 胃ろうの光と影

あなたは最後をどう生きたいですか？

胃ろうとは...飲込みの機能が落ちたり、認知症などで口から食べる事が難しくなった人の胃に穴を開け、管をとおして栄養を入れる方法です。

寝たきり高齢者への在宅介護の限界から家族は施設での最期を望むようになり、日本人の80%が病院で亡くなっています。また病院では胃に直接栄養剤を入れる“胃ろう”の延命処置を選択せざるを得ないのが現状です。家族は迷いながらも受け入れてきましたが、しかし、高齢者はいかに死を迎えればよいのでしょうか？

老衰の果ての死に対して“胃ろう”とどう向き合うべきかを市民の皆様と今一度考えてみたいと思います。



4/23(土曜日) 13:00 ~ 16:15



アルカスSASEBO 中ホール

(JR佐世保駅より徒歩2分)

◎基調講演

## 『枯れるように死にたい』

「胃ろうによる延命、それとも自然死？」

あなたはどちらを選びますか？」

◎シンポジウム

## 「“胃ろう”について私はこう考える」

主催：長崎嚥下リハビリテーション研究会

後援：長崎県・長崎県医師会・

長崎県介護福祉士会・長崎県看護協会・

長崎県言語聴覚士会・長崎県栄養士会・

長崎県作業療法士会・長崎県社会福祉協議会・

長崎県社会福祉士会・長崎県保険医協会・

長崎県理学療法士会・長崎県老人保健施設協会・

長崎県国民健康保険団体連合会・

(財)長崎県すこやか長寿財団・佐賀県言語聴覚士会

認知症の人と家族の会長崎県支部

(順不同)

演者 profile

た な か な お み  
田中奈保美



1950年生まれ。フリーランスライター。医療と食に関する取材、執筆を多く手がける。昨年8月、医師の夫と二人三脚で、高齢者の看取りと死をテーマとした単行本「枯れるように死にたい」(新潮社刊)を出版。

詳しいお問い合わせはこちらまで

TEL 0956-65-2101 (担当/岩井)

長崎嚥下リハビリテーション研究会

事務局/山部歯科医院

〒859-6101 長崎県佐世保市江迎町長坂180-9

FAX 0956-65-2102

E-mail: n-engerihaken@swallow-web.com

